



一宮町長
馬淵 昌也

二度目の緊急事態宣言が発令され、町の皆さまも感染防止に留意されながら、お正月を過ごされたことと思います。わたくしも外出自粛で過ごしましたが、その中で町振興のためのミニアイデアを思いつきました。

毎回、コロナに関することはかりでは、皆さまも気が滅入ってしまわれると思います。今回はコロナの話題から離れて、このアイデアを紹介させて頂きます。

それは、一宮と東浪見に「七福神巡り」を設定してみたらどうだろうというものです。皆さまご存知だと思いますが、七福神巡りは、江戸時代に江戸郊外向島で考案され、各地に広まりました。お寺や神社を7つほど選び、恵比寿・大黒・弁天・布袋・毘沙門天・福祿寿・寿老人の七福神の像を安置し、お正月にみんなが福を祈って順番にお参りするというものです。その際、参拝者は、記念の宝船や色紙などを拝受しながら回るのです。地域の経済活動に結びつきます。最近はその朱印収集がブームです。これと結びつければ、ますます人を呼ぶことができるでしょう。駅前観光案内所で売っている一宮

城の御城印とも関連づけることができますし、巡回ルート上で、地元産物を販売することもできます。

一宮の町中には、玉前神社・観明寺をはじめ、お寺や神社が、近い範囲で立地しています。また東浪見も、軍荼利様からはじめて、釣ヶ崎海岸の鳥居前までの間に、十分な数の寺社が数えられ、参拝者は、歩いて七福神めぐりを楽しむことができます。町のお正月をもっと賑やかで、消費を喚起するものとするのができるのではないのでしょうか。

もちろん、このプランに参加していただけるか否かは、各寺社それぞれのご意向によります。しかし、寺社の皆さまには、社務所や庫裏でご対応いただく形にすれば、それほど手間がいるわけではないと思います。観明寺では、すでに「浜の七福神」の経験もお持ちです。

わたくしは、コロナが終わったあと、小さく始める町おこしのひとつとして、この一宮七福神・東浪見七福神を実行してみてもどうか、と思いつきながらお正月を過ごしたのですが、皆さまのお考えは、いかがでしょうか。